

ワークステーション活動の現状把握に関する研究

1. 研究の対象

2019年5月から済生会熊本病院によるワークステーション活動で病院前救護を行った全ての患者

2. 研究目的・方法

救急医療は時間との闘いであるとも言われており、時と場所を選ばず発生する重症救急患者に対して、いかに短時間で適切な初期治療を開始できるかが予後を大きく左右することとなる。ドクターカーは傷病者発生現場へ救急医療に精通した医師が出向くことにより、傷病者発生から初期治療までの時間を大幅に短縮し、救急患者の良好な転帰の獲得をめざすシステムである。当院をはじめとする市内の救命救急センターではプレホスピタルの活動としてワークステーション方式での運用を行っている。ワークステーション方式とは、自治体消防がその自治体運営の医療機関内に救急ステーションを設置して、そのステーションに救急救命士や救急隊員を配置してその医療機関において研修を行うかたわら、重篤な救急事例ではそのステーションから医師同乗にて現場へ出動して医療を行うシステムである。現在、当院では4~5日/月の活動日に対して、1~3回/日の出動要請があり現場活動を行っている。

しかし、これまでのワークステーション方式での現場活動に関してデータの集積は行っていなかった。今後、プレホスピタル活動を継続していくにあたって、現場活動の問題点を抽出し改善していくことが必要であり、ワークステーション活動のデータを集積することとした。

目的

- 1) 覚知から病院搬送までの時間経過の評価
- 2) 現場活動内容の評価
- 3) 病院選定の評価

方法

研究対象者から取得した診療情報を用い、ワークステーション活動における振り返りを行い、検討すべき活動内容のある症例においては救急隊および医師での検討会を行う。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：プレホスピタルレコード

以下の項目について調査を行い、そのデータを本研究に利用する。

- ① 患者基本情報；年齢、性別、既往歴、搬送日時、搬送救急隊名、覚知から病院搬送までの時間経過、現場の患者バイタル

搬送先病院名、現場診断名、現場重症度評価、搬送後診断名

- ② 現場活動情報：現場処置内容（酸素投与、ルート確保、挿管等）
- ③ 担当医情報；担当医師名

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号

済生会熊本病院 臨床研究支援室

連絡先：096-351-8000（代）

研究責任者：救急総合診療センター 川野雄一郎

以上